



第 617 回 「成功する人」の真理

2015.2.22

「成功する人」

- 1、人間的成長を求め続ける
- 2、自信と誇りを持つ
- 3、常に明確な目標を指向
- 4、他人の幸福に役立ちたい
- 5、良い自己訓練を習慣化
- 6、失敗も成功につなげる
- 7、今ここ100%全力投球
- 8、自己投資を続ける
- 9、何事も信じ行動する
- 10、時間を有効に活用
- 11、できる方法を考える
- 12、可能性に挑戦し続ける

「失敗する人」

- 1、現状に甘え逃げる
- 2、愚痴っぽく言い訳ばかり
- 3、目標が漠然としている
- 4、自分が傷つく事は回避
- 5、気まぐれで場当たりの
- 6、失敗を恐れて何もしない
- 7、どんどん引き延ばす
- 8、途中で投げ出す
- 9、不信感で行動できず
- 10、時間を主体的に創らない
- 11、できない理由が先に出る
- 12、不可能だ無理だと考える

経営者でもスポーツの世界でも、テレビに出る成功者は輝いて見える。羨望や尊敬の念は凡人の共通の思いであり、スターへの憧れである。あの輝きの裏に秘められたストーリーは、どんなものがあるのだろう。つまり、成功する人と失敗する人の違いは、どこにあるのだろうか？今回はそんな話である。

「成功する人」と「失敗する人」の特徴をまとめた資料がある。

上記12項目すべてに共通することは、たぶん「**チャレンジ**」と「**行動**」ということかもしれない。

まず、「挑戦する意欲」、失敗する人には、これがない。

やらない理由を用意し、先延ばし、そしていつの間にか逃げている。

何とも惨めなことは、常にやらないことを正当化しようと、偏屈な努力を繰り返している。

つまり「言い訳をする」…これに費やすパワーと時間が、実にもったいない。

成功する人は解決する方法を探し実践するのに対して、失敗する人は物事を批評し言い訳をしながら傍観する。この違いの積み重ねが、人生を分けていくのかもしれない。

成功する人と失敗する人は、その後の行動にも、大きな違いがあるようだ。

誰でも初めてやる事が、いきなり上手くいく訳がない。

1回でなんでも上手く出来たら、それこそ天才で、通常は成功より失敗が多いのは当然なのだ。

いくつの失敗を経験すれば「成功」するのは、誰も分らない。

「やっぱり駄目だった」「もう無理だ」「時間の無駄だ」…行動を辞める時の決まり文句である。

成功している人は継続性がある。負けてばかりの人は継続性がなく、諦めの決断が頗る早い。

結果を出すために同じことを続ける先に、真の「成功」が待っていること、体感できない人である。

自分が創った目標を継続することが成功への近道だ。そうするうちに、勝ち癖ができ、自分の信念が生まれるというストーリーが、成功へのプロセスかもしれない。

成功する人と失敗する人の決定的な違いの第2は…「実行力」ということに他ならない。

つまり、トライ&エラーを繰り返した結果、成功するまでやり続けることができた…この実行力が、成功者の必須の共通点であるようだ。

『成功とは、意欲を失わずに失敗に次ぐ失敗を繰り返すことである』…イギリスの元首相 W・チャーチルの言葉が見事に言い表している。

憧れるスーパースターの裏には、全てこの真理がある事、忘れてはならない。